

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670100627		
法人名	社会福祉法人敬寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園		
所在地	山形市大字妙見寺500-1		
自己評価作成日	平成 21年 7月 13日	開設年月日	平成 11年 7月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年 9月 3日	評価結果決定日	平成 21年 9月 25日

# ( ユニット名 ほがらか )

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族とのふれあいが保てるよう、花見、夏祭り、大運動会、芋煮会、クリスマス忘年会と四季の行事を家族が参加しても楽しめるよう考案し、多くの家族から参加していただいている。グループホーム自体自然に囲まれた環境にあり、四季が感じられるよう、春は花見に加え夜桜見学、夏は花や野菜の苗木の植え替えを入居者で行い、秋は紅葉狩り、冬は節分、初詣、団子木作りなど活動的に過ごしている。又ホーム内でもこれまでの生活歴から得意なこと、好きなことが日常的に感じられるよう支援しており、詩吟などの趣味のある方には、ケアハウス内で月2回行われている詩吟教室の参加や、縫い物、絵画、料理、お菓子作りなど、入居者一人一人の活躍の場を考慮しながら支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービス評価(自己評価・外部評価)の意義を職員全員に伝え、早期より全職員が自己評価に取り組み、各ユニット毎それぞれに意見をまとめ課題を提起し、目標達成に向けた今後の取り組みで検討され、自己評価を最も重みのあるバイブルと捉えられている。管理者、リーダーを中心に縦、横のつながりができており、意識の統一がされています。今回の衆院選には「地域に関われ社会の一員として生活する事を支援する」の理念に添い、全員選挙に出かけています。自主性の尊重、自立支援を大切に、利用者が活き活きと暮らすことが出来るよう、皆で力を合わせチームケアを大事にしているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の地域密着型サービスであるという事を考慮した理念があり、理念を共有出来る様、ミーティング時に管理者が具現化し実践につなげている。	理念を根拠とし、日々のサービスの道しるべと捉え、毎月のミーティング時に一つひとつの場面に理念との繋がり、関連性の話し合う場を設け、職員全員が同じ方向性に意識をもち、実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	園の夏祭りに参加して頂けるようお願いしている。また、地区の文化祭や盆踊り大会、健康教室などへの参加、地元中学生のボランティアの受け入れや日常的な買い物を通し、地域の人々との交流の機会を持っている。	法人の夏祭りには地区振興会等よりテント等を借り、出店を出している。又、地区行事のお祭り等には利用者と共に参加し、中学生の体験学習や教育実習の研修生を受け入れ、地域の人たちとの交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通して、地域の人々に向けて理解されるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方にGHに入って頂いたり、運動会や芋煮会、家族会に参加して頂き、実際に入居者や家族の方と関わりを持つ事でGHについて理解して頂くと共に、運営推進会議内で出された意見等についてミーティングなどの機会を通して職員で話し合い、実際のサービスに反映させている。	振興会々長、民生委員会長、長生会々長、福祉協力員代表、家族会代表、地域包括支援センター等のメンバーで行なわれ、日頃の身近なお茶のみ話を率直な意見と大切に受け止め、ホーム行事等への参加を促し、状況を目で確認していただきながら双方向的に働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	参加して頂けなかったが、運動会、芋煮会では案内状を出している。また、生活保護の担当者の方の面会もあり必要に応じて電話連絡も行っている。	認定更新手続き等の機会に利用者の状況報告等を行ない、連携を深めるためにホーム行事への案内状を出しながら関係づくりに留意している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、玄関や外部へ通じるドアにはセンサーや鈴をつけ、ドアが開いたらすぐに分かる様にし、外へ出たがる入居者に対しても出来る限り一緒に寄り添うケアを意識しながら取り組んでいる。	身体拘束について月1回のミーティング時に事例等の検討、意見を出し合っている。見守りや言葉づかい等の精神的な関わりに職員のワンパワーを大切にし、身体拘束や鍵をかける生活支援に共有認識を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内、日々のケアにおいて声掛け、心身共に虐待が起こらない様職員同士互いに注意出来る環境を作っている。又虐待についての研修に参加し、参加出来なかった職員も報告書を通し学んでいる。特に口調については意識するレベルを上げていき、如何なるものも防げるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もあり、管理者・職員共に概要を理解している。制度を必要としている場合には、家族・関係者との情報交換も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時共に契約書・重要事項説明書を読みながら、疑問や不安な点を伺いながら説明し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の際、家族からの意見、不満、苦情を聞く機会を設けており、また外部者へ意見・不満・苦情等を話せるよう玄関先の目立つ位置へ連絡先を掲示し、入居者、家族に説明している。又、運営推進委員と入居者が触れ合う機会を設けている。	面会や行事等を通し家族等とのふれあいが常にあり、対話は業務日誌、ケース記録として残し、職員は共有しながらサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者はよろず箱の設置や、朝礼の際意見を聞く機会を作り、管理者は日常的・定期的に意見や提案を行う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、事業所内で日頃の取り組みに対する自己評価を実施している。運営者は、それに目を通すと共に日頃の努力や実績を把握しており、実績を評価し、その上で、職員は向上心を持ち、仕事をする事ができている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や交換研修を受ける機会が設けてあり、交換研修においては経験年数に応じ参加を決定している。又、全体朝礼で研修報告を行い報告書をコピーし閲覧している。GHでも学習会の機会を設け、職員のスキルアップの為の取り組みを行っている。	職員の質の確保、向上に向けた育成が出来ており、法人内外の研修には積極的に参加を促し、新人職員にはOJTの体制をとり、働きやすい環境に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に行われるスタッフ研修や、市・県のグループホーム職員の交換研修などで他グループホームとの話し合いなどを行う機会が設けられており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡協議会(県・市)の研修会等に参加し、活動・交流を通じサービスの質の向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に届くアセスメントに目を通し、事前面接では職員も交え本人の話を傾聴し、不安や困っている事等を聞く機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に届くアセスメントに目を通し、事前面接では職員も交え家族の話を傾聴し、不安や困っている事等を聞く機会を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域密着型サービスや他GHを紹介するなどを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々な場面で、入居者より慣わしごとを聞く、共に支えあう機会を設けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画立案・見直しの際は、必ず家族の希望を伺うようにし反映させている。また、花見・夏祭り・芋煮会・クリスマス忘年会などの行事に参加を促し、一緒に本人を支えていく関係作りを行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、老人クラブの方の面会・外出の機会があれば、その交友関係が続くよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握した上で、職員が間に入り話題を提供したり、食席や入浴の順番等を工夫し、トラブルを未然に回避できるようにしている。また、他利用者へ面倒見の良い利用者もおり、助け合いが見られる場合は、安全面を考慮した上で見守るようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、入院している場合などは通院時に面会に行くなど、これまでの関係を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本意になるよう職員全体として心掛けており、自由献立・外食先・出前メニュー・その日の服装・外出先・趣味・日課など本人の希望にあわせて対応している。また、コミュニケーションがとりづらい入居者には、普段の表情や家族面会時などに以前の様子を聞きケアに反映させている。	一人ひとりの生活歴を把握し、生活を支える為のアセスメント、センター方式を取り入れ、職員は観察や気づきを記録し情報を共有している。家族等には常に記録を見ていただき、相互関係を築いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴や環境、認知症になる頃から入居までの経緯や、以前の本人の趣味・嗜好などの把握に努めている。また、普段の何気ない会話や面会時にも情報収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、各種チェック表を利用し、体力や体調、心の状態を把握し役割活動や一日の過ごし方等を考慮している。また、新しいできる力・わかる力等の発見があった際には業務日誌や写真等を利用し、職員全体として統一した意識が持てるよう努め、センター方式にも反映させている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの情報収集を行い計画の立案をする上でも、本人・家族の意向を反映させ、職員全員でミーティング時に意見を出し合い介護計画を作成し、3ヶ月に1度見直しを行っている。入居者に変化があった場合はその都度見直しをし、出来た介護計画は家族に説明しコピーをお渡ししている。	職員2名により利用者3名を担当しているが、日々の関わりの中で本人等の希望を聞き取りながら、気づきや情報を個別記録にて共有し、職員全員で意見交換を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌からケース記録に転記する際は、日勤帯を黒、夜間帯を赤とわかりやすく記入し、場合に応じてケアプランチェック表を利用し、介護計画の見直しに反映させている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中・高等学校よりボランティアの受け入れがあり入居者と触れ合う機会が設けられている、個別的に本に興味のある方には図書館の利用、絵の興味のある方は展覧会を見に行く機会や健康教室への参加を設けている。また、消防署と混じえて年2回の防災訓練を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	以前より、かかりつけ医であった病院等での通院を行っている。家族より協力病院での受診を希望された場合は、本人にも相談し、納得した上で紹介状を書いてもらい転院している。又職員付き添いで通院しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	従来からのかかりつけ医と協力病院への職員付き添い受診と日々往診の形で来訪下さる先生がおり、選択幅が広い中で利用者・家族等職員にとっても心強く良い関係が保たれている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	敷地内に駆けつけられる看護師が5名おり通院時や緊急時の対応と看てもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、又入居者を交え見舞いに行った際や付き添い家族等から医師や看護師との情報交換、また、受け入れ可能(医療的な処置が通院で可能な状態)であれば早期に退院できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族に指針をもとに説明を行い、終末期になった場合には医師・家族との相談のもと往診などに切り替え方針を変更し、申し送りノートを利用しながら、職員全員が情報、方針を共有している。	職員全体での方針・情報の共有は当然のことと捉え、ターミナルを検討する時点で近隣に在住する先生の協力が大きく、医療関係者等との関係づくりができている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、心肺蘇生法、緊急時の対応の講習を定期的に行っており実際の場面で活かせるよう努めている。研修を受けた際は、職員全員で閲覧している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し、職員はどの手順で入居者を誘導するか、確認を行っている。又実際にどれだけの時間がかかるのか、訓練も行っている。地域消防団に協力をお願いし了解を得ている。災害の発生時に備えて、食料や飲料水を備蓄している。	日々の外出支援の中で手順の再確認や利用者の出入りに要する時間を計測し、訓練時の参考にしたり、地域消防団の協力のもとで法人全体での訓練を6月とこれからの冬場にかけて予定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、職員それぞれが普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないよう心掛けているが、ミーティングの際等、職員同士、お互いのかかわりについて良い点・改善点について話し合い、マンネリ化や馴れ合いを防ぐようにする事を心掛けている。	利用者にとってできること、できないこと、やってほしいことを職員間で日頃より把握し、チームワークの重要性を認識しながら関わりができています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの理解力を把握しそれに応じた説明や声掛けを行い、利用者それぞれが自らの思いを表せるよう工夫している。また、出前や自由献立、外出先を決める際は、写真やパンフレット等を用いて説明を行い、理解しやすいよう務めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでの生活リズムはあるがそれに無理に当てはめるのではなく、本人の希望や体調、また生活歴や普段の行動・言葉に目を向け、その人らしい生活がどんなものなのかを考え、それぞれのペースで暮らせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時希望に応じ化粧やマニキュアをし、その際は本人にマニキュアの色を選んでいただくなどし、おしゃれを楽しんでいる。服を購入する際は本人に選んでもらうようにし、その人が好む洋服を購入している。理容は出張散髪を利用している方が多いがその際は、髪型を本人に決めて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備から後片付け、入居者の方が力を発揮できるように、それぞれに合わせた支援を行い、食事の楽しさや意欲につなげている。又食事中は、テレビを消し食席も人間関係に考慮している。	手伝いや全員での買い物が参加意欲を増し、活力が食の楽しみにつながっている。食事内容も月末には選択コースが設けられ、時には外食へ出かけた時多方面からの支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて水分・食事の摂取状態を把握し、また利用者それぞれの体調、嗜好に応じ食事の量や形態、配膳等の提供の仕方、また職員の声掛けや介助の仕方を工夫し、栄養のバランスや水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っており、義歯の方に関しては、夜間洗浄剤につけている。口腔ケアの難しい方に関しては、入浴時に義歯を預かり洗浄剤につけている。又歯科衛生士の指導の元、職員が口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、職員が排泄パターンを把握し、それに応じたトイレ誘導や介助を行い、出来る限り紙パンツ、オムツ等を使用しないよう、支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員同士で共有し、夜間を除き日中はほぼ利用者全員が布パンツに尿取りパッドを使用という自立支援がこの場で活きている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄パターンを理解し、バランスの良い食事の提供、水分補給、便秘のひどい方には個別的にヤクルトを購入して頂き飲んで頂いている。また役割活動やレクリエーションで適度に体を動かすと共に、ラジオ体操やみんなの体操も取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	全員毎日就寝前にゆったりと入浴しており、個人個人に合わせて、入浴時間やお湯の温度を調節している。男性職員の介助に抵抗がある女性入居者の入浴の際は、女性のみが対応する事とし、気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	入浴を楽しんでもらうことと、家庭の延長線を考えて毎日の入浴時間は就寝前に行い、その後ゆっくり休んでもらい、夜間の安眠等にもつながる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の活動量や心身状況にあわせて休息を取ったり、日中帯は活動的に過ごすようにし、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に服薬の内容証明をファイルしており、服薬の変更、Dr.からの指示は通院記録に記入している。服薬は用法・用量に応じてホチキスでひとまとめにし誤薬を防止すると共に、身体に変化があった場合は、記録、報告をしっかりと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、苦手な事を、生活歴や家族からの情報を元に、職員が理解しており、本人が楽しんで、達成感、満足感が得られる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に合わせた外出(買い物等)や、天候の良い日などに、ドライブや外での食事など、ホーム内だけの生活にならない様支援している。又ドライブ等に出掛ける際は、ドライブ先の写真等を利用し、入居者の方に出掛け先を決めて頂いている。	日々外出先の希望を聞くだけでなく、利用者から雑誌・写真や広告等を目で選んでもらい、より出かけたい気持を促し、一人ひとりの希望に添った外出支援ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していたい方については、家族との相談の元、本人管理を勧め、管理が難しい方に関しては、職員側で管理をしているが、買い物の際などには本人の力量に合わせて支払い時の援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった際や、外部からの電話や小包、手紙が届いた際には、返信の手紙や電話を行い、外部との交流を個々の力量に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には、写真立てやコルクボードを使用し四季が感じられるように、季節ごとの写真や花を飾り、テレビの音は一定に保っている。食堂の天窓には直射日光を避けるため、すだれを設置し居心地の良い空間作りに努めている。	廊下や居間には四季折々の花や写真が飾られていて、心を和ませてくれる。トイレはさり気ない目印があり、プライバシーを考慮した工夫がみられる。さらに、室内の換気には最も留意し、小まめに行なわれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、和室、食堂と入居者が好きな場所で過ごせる共用スペースがあり、ゆったりと過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具の持ち込みを勧めており、又使い慣れたなじみの物品、自分で作成した手芸品や家族の写真等を居室に配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は不安なく安心して過ごしてもらうことを職員間で心がけており、好みの物や自ら書いた書道や絵を飾り、居心地の良い場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、玄関には手すりがついており、また入居者それぞれの身体能力や認識力を理解したうえで、それに応じた家具の配置等の環境作りを行っている。食堂の椅子もそれぞれの体の状態に合わせて、座布団を利用したり、滑り止めのマット、クッションを利用するなどの工夫を行っている。			